

学生、大学教職員、市議会議員、選挙管理委員会…様々な人の力を借りて

「模擬前橋市長選挙」

前橋市立前橋高等学校

めぶく

地域活性化プロジェクト



探究通信
第7号
R3.12.13

本校HPをご覧ください

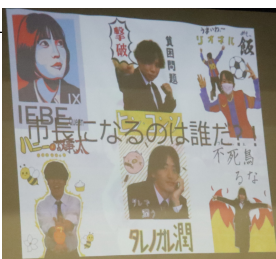


12月2日(木)に「模擬前橋市長選挙」を実施した。このプログラムは地域課題を発見し、「市長選」という形をとってその具体的解決手段を提案するものだ。

2ヶ月間にわたる準備

2年生は10月より高崎商科大学のご協力のもと実施したプレインストミーング

で「史上最高の前橋市」についてアイデア出しをするところから始め、それぞれ



応援演説をする2年生(上・下左) 投票をする生徒(下中)

のクラスに配属された共愛学園前橋国際大学の学生により、市長選のマニフェストの形に落とし込み始めた。11月4日(木)には、市議会議員の方々をお招きし、

↑市長候補は前国大の学生

1年生 市内企業フィールドスタディ

11月4日(木)に1年生が市内の企業31社にご協力をいただき、それぞれの班に分かれてフィールドスタディを行った(写真は上毛新聞にも当日の生徒たちの活動に関する記事が掲載された、株式会社ソウワ・ディライトでのインタビューの様子)。生徒たちは現在、1月20日(木)に予定されている各班による「報告会」に向けた準備を進めている。9月に中心商店街で行った「まちなかりサーチ」で発見した地域の魅力と課題、そして、企業訪問をして知った各企業の特性や地域とのつながりをもとに、市の課題を解決する具体策にも目を向けていく。



各クラスで考えた地域課題を解決するための具体的手段に関して、実現できるのか、(模擬)前橋市長の施策としてふさわしいのか助言をいただきたい。

各クラスのアイデアは、イベントを立ち上げる、テーマパークをつくる、交通問題を解決するなど、ある種共通するようなものが多かったが、各クラスにテーマを割り振ったことと大学生の支援もあり、それぞれアップ

ローチを変えながら、そのクラス独自のマニフェストを作り上げていった。1組は多文化共生の観点で「多様な人々の共生」、2組は環境問題の観点で「持続可能な社会」、3組は過疎化対策の観点で「地域を元気に」、4組は質の高い教育の観点で「人生の充実」、5組は地元農家・企業救済の観点で「暮らしや仕事を支える技術」、6組は貧困問題の観点で「健康で安全

2年生はこの後、作成したマニフェストを題材に前橋市議会へ出向き提案する「高校生模擬議会」に臨む。

当日は前橋市選挙管理委員会と明るい選挙推進委員会の皆さんによる全面協力のもと「本物」の投票所を用意した。今回の市長選は1・2年生に向けた「主権者教育」の役割も担っており、選挙管理委員会による、投票に関するレクチャーをしていただいた。市長候補の応援演説を終え、すぐに投票を行い(右上の写真)、即、開票作業を行った(右下写真、開票作業を行う1年生)。結果、「まえばしハニープロジェクト」との連携事業、自由な学校、事故ゼロの前橋市について言及した5組の擁立した候補者が当選した。



な暮らし」でアプローチし、それぞれ地域の課題を解決するマニフェストを発表した。